

第8回 石原円吉賞 記念講演

石原円吉賞の表彰式を前に、立教大学大学院生の齋藤さんに、伊勢志摩国立公園の誕生から今日に至るまでのさまざまな経緯や、観光地でもある同公園を未来へつなげていくために求められる「保全」の考え方についてお話しいただきました。

「観光地としての伊勢志摩国立公園～指定80周年によせて～」

講師：立教大学大学院 観光学研究科 観光学専攻 博士前期課程2年

さいとう しんく
齋藤 進駒 さん



伊勢志摩国立公園指定の背景

今回は、国立公園指定80周年によせて、観光地としての伊勢志摩国立公園についてお話しします。

戦後初の国立公園として1946年11月に誕生した「伊勢志摩国立公園」。指定の背景には、戦前から指定に向けた調査が進められていたこと、名古屋・京都・大阪といった都市部からのアクセスの良さがあったことに加え、終戦後の混亂で荒廃した神宮(宮域林)を国立公園制度によって守ろうとする意図もあったのではないかと考えられます。

観光地「伊勢志摩」ができるまで

1948年に立案された公園の建設設計画では、環境保護のための特殊地域を設定するとともに、鉄道・自動車・船舶・航空機による観光ルートを重視する方針がとされました。

「世界公園の建設」が謳われ、戦前の国立公園とは一線を画す公園建設を目指されました。その中で現在の国道42号や167号、伊勢志摩スカイラインや伊勢シーパラダイスの整備の原案なども整え

られています。

さらに、外客の受け入れ態勢を強化する目的から戦後初の純洋式リゾートホテル「志摩観光ホテル」が建設され、賢島の大規模な開発が進んでいました。

観光開発を後押しするイベントとして1948年に宇治山田市と宇治山田商工会議所が中心となって開催した「平和博覧会」があります。ここで交通体系が整備され、伊勢志摩地域や国立公園の存在を全国に広くアピールする機会となりました。

さらに、近鉄鳥羽駅や志摩線の改良を契機に、鳥羽は交通の結節点としての役割を担うようになり伊勢志摩観光を支える交通、宿泊、観光施設のベースが1970年頃までに完成し、今に至ります。

「環境保全」のための「観光」

現在、国でも国立公園の観光利用を重視しているようで、今後、国立公園を取り巻く状況は新たな局面に入っていくと考えられます。観光に注力する一方で、忘れてはならないのが環境保護です。

私が感じるのは、伊勢志摩は「観光しかない」のではなく、「観光もある」ということ。観光地であり、暮らしの場であり、国立公園として守り継ぐべき自然のフィールドでもあります。人と自然が密接に関わっていることは、同公園の特徴であり価値の一つですが、適切にマネジメントしていくかないとオーバーツーリズムなどを招き、自然や暮らしに悪影響を及ぼしかねません。

ですので、環境を守る「保護」と、保護しながら利用する「保全」の境界を明確にすることが大事です。国立公園における観光は、あくまでも「環境保全」の選択肢の一つと考えています。

90周年、100周年と国立公園を未来へつなげていくためには、適正規模での保全が求められます。私自身も研究を通じて、今後の発展に貢献していきたいと思います。



平和博覧会ポスター
出典：「北岡善之助——伊勢の博覧会男」
(伊勢文化会刊)より転載



横山展望台から見た英虞湾の風景



石原円吉 いしはら・えんきち (1877~1973)

三重県英虞郡と具村(現在の志摩市志摩町和具)出身。実業家で国や県の政界でも活躍。水産業発展と海の保全に尽力した。

戦前から伊勢志摩の国立公園の指定にも貢献し、戦後、伊勢志摩国立公園協会初代会長に就任。昭和46年海の博物館を開設した。

このチラシに関するお問い合わせ先

(一財)伊勢志摩国立公園協会

〒517-0011 三重県鳥羽市鳥羽1丁目2383-51
TEL & FAX 0599-25-2358
ホームページ <https://www.ise-shima.or.jp/>
メール ise-shima@ise-shima.or.jp



ホームページ

メール

11月20日は伊勢志摩国立公園の誕生日

世界水準のナショナルパークを目指す

伊勢志摩国立公園

初春の便り



令和8年1月
Vol.16

発行／(一財)伊勢志摩国立公園協会、三重県 編集協力／(株)アイブレーン

地域とともに歩む80周年の節目へ

80周年記念広報媒体制作発表・第8回石原円吉賞表彰式と記念講演を開催



令和7年11月20日と23日、地域の皆さんとともに伊勢志摩国立公園の指定日を祝い、自然に親しみ未来を考える記念イベント「Happy Birthday! 伊勢志摩国立公園」を鳥羽マリンターミナルで開催しました。

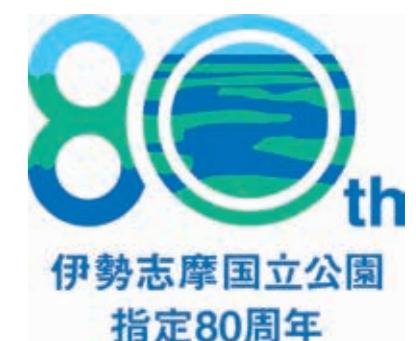
20日には、第8回石原円吉賞表彰式にあわせて、伊勢志摩国立公園指定80周年記念事業実行委員会が制作した記念ロゴマークやポスター、さらに鳥羽水族館のラッコ「メイちゃん」を起用したPR大使イラストの制作発表を行いました。ロゴマークは、伊勢志摩国立公園の豊かな自然と、リアス海岸の多島美を

モチーフに「80」をデザインし、「0」の中には望遠鏡で発見した景色を描き込むことで、小・中学生にワクワク感や冒險心を喚起することを目指しています。ポスターは、同国立公園を象徴する4つのモチーフを現代アート風に表現。海・島・山並みといった異なる自然環境が一体となって公園を構成している様子を、曲線模様で伝えています。

また、本事業のPR大使として鳥羽水族館のラッコ「メイちゃん」を起用し、名探偵に扮したオリジナルイラストを制作しました。次世代を担う子どもたちをはじめ、地域の魅力を幅広く紹介する「伊勢

志摩ナビゲーター」として活躍します。これらの広報媒体は、国立公園の魅力をより多くの方に伝えるため、イベントや広報活動に活用していく予定です。

ロゴマークデザイン



PR大使に庄司

ポスターデザイン(4種)



鳥羽水族館の
ラッコのメイちゃん



海女



伊勢海老（御食国）



伊勢神宮と宮域林



英虞湾の多島風景

第8回 石原円吉賞 受賞者インタビュー

国立公園の発展に尽力された協会初代会長・石原円吉氏の功績を顕彰して創設された「石原円吉賞」の表彰式が、11月20日に開催されました。この賞は、地域文化の継承や適正な活用、動物保護に顕著な活躍をされた個人・団体に贈られます。今年は、志摩市の伊藤芳正さん、鳥羽市の「鳥羽まちなみ水族館」が受賞。山本教和会長より表彰状ならびに記念品が贈呈されました。



個人受賞

伊勢志摩国立公園自然ふれあい推進協議会

事務局長 伊藤 芳正 さん

私が勤務する「横山ビターセンター」は、地域住民はもちろん、訪れるすべての人々に伊勢志摩国立公園の自然・文化・伝統産業に触れてもらうことを目的で設立されました。館内では、「英虞湾の成り立ち」や「伊勢志摩の動植物」など、テーマに沿って解説した常設展示パネルを設置しています。また、4面シアターは居ながらにして伊勢志摩の



自然観察会「夏の星空観察会」座学の様子



自然観察会「志摩のサトウキビ収穫体験」での説明

自然を現地に訪れた感覚で体感できます。当センターの運営を担っている伊勢志摩国立公園自然ふれあい推進協議会は、横山園地の管理運営をはじめ、同国立公園内の情報発信や季節ごとの自然観察会、各市町・団体のイベント協力、伊勢志摩の自然調査などを行っています。また、環境省の協力のもと、自然観察や保護活動など、さまざまな事業を展開しています。同国立公園は私有地が96%を占めており、居住人口も多く中京圏、関西圏からのアクセスも良好です。環境省では国立公園の保護利用で地域

活性化を図る「国立公園満喫プロジェクト」を推進し、日本の35ある国立公園の中から伊勢志摩をはじめとする8つの国立公園を世界水準のナショナルパークを目指す目的で指定しました。伊勢志摩国立公園、横山展望台を世界中の人们に知りたいという関係団体とともに魅力発信に取り組んでいきたいと考えています。

選考委員 講評

伊藤さんは、伊勢志摩国立公園自然ふれあい推進協議会における「自然観察会」の開催を通して、地域の自然と人々を結びつけてこられました。伊勢志摩には豊かな自然や港ごとの暮らしがあります。それらをよく観察し、守り、理解を深める活動を長年続けてこられた点を高く評価しました。また、15年にわたり協議会の事務局長を務められ、ご自身でボランティアガイドとして尽力されたことも、地域にとって大変意義深い活動と拝みました。

団体受賞

鳥羽まちなみ水族館

初代実行委員長 水谷 伸子 さん

鳥羽まちなみ水族館は、県の文化振興事業をきっかけにスタートしました。現在メンバーは20名。主な活動として、鳥羽の観光振興や環境保全を目的に、流木やペットボトルなどの漂着ゴミを回収し、それらを素材にしたアート作品を制作しています。作品は「鳥羽まちなみ水族館」として、近鉄鳥羽駅につながる鳥羽駅連絡橋で年に1回(2ヶ月間)展示を行っています。作品づくりには子どもから大人まで幅広い世代が参加し、メンバーが制作のサポートやイベントの準備にあたっています。また、鳥羽市内の小学生を対象に「浜のゴミ拾いツアー」を実施し、環境への意識を高める取り組みも行ってきました。自分たちが暮らす鳥羽の美しい海をい



海の漂流物を活用したアート制作の様子



鳥羽まちなみ水族館の展示(鳥羽駅連絡橋)



カラフルな作品の数々

つまでも守り続いているよう、「海岸にゴミを捨てない」という意識づけを大切にしています。

若い世代に地元への愛着を育んでもらうとともに、鳥羽を訪れる皆さんへの

感謝の気持ちを込めて、これからも活動を続けていきたいです。
今回の受賞は、私一人の力ではなく、周囲の皆さんご支援があったからこそです。本当にありがとうございました。

選考委員 講評

地域に根差した活動を20年以上継続してこられた鳥羽まちなみ水族館。ゴミ拾いなど普段は目に見えにくい取り組みを重ね、漂着物を「生きものアート」へと発展させ、環境保全を芸術的視点で地域に還元してきた点は特筆すべきものです。さらに、学校教育にも力を注ぎ活動を広げてこられた結果、「環境」「観光」「福祉」という現代社会のニーズに応える地域活動へと展開しながら、人々の心の豊かさと地域社会に新たな価値をもたらしている点も高く評価しました。

*

*
松ぼっくりの
飾り付け
楽しい!!

*
11月23日
日

*
Happy Birthday! 伊勢志摩国立公園 クラフト体験教室
松ぼっくりを使ったクリスマス飾りづくり

*
講師 造形教室講師 上村 光さん

*
鳥羽市在住の造形教室講師・上村光さんを講師に迎え、世界にひとつだけのクリスマス飾りを制作しました。

*
参加者は、松ぼっくりやシーグラスの素材を形や質感を確かめながら選び、モールなどのパーツをグルーランで貼り付け、思い思いの飾りに仕上げていました。

*
自然の恵みを活かしたものづくりを通して工夫する楽しさを味わい、季節の行事をより身近に感じることができました。完成した作品を眺めながら、子どもから大人まで笑顔が広がる温かなひとときとなりました。



「ジングルベル リース」で口ずさむ子どもたち

お知らせ

第9回 石原円吉賞候補者の推薦を募集します！

対象

伊勢志摩国立公園の自然や文化を守り続ける取り組み（地域文化の継承や適正な活動の推進、動植物の保全活動など）に携わっている個人や団体。

候補者の推薦・応募方法

推薦書は、伊勢志摩国立公園協会ホームページから入手できます。必要事項を記入のうえ ise-shima@ise-shima.or.jp に送信してください。